

## 武蔵野税務署長賞

### 未来のための税金

東京都立三鷹中等教育学校

三年 中村 夏帆

私たちの生活は、色々な場面で税金と関わっています。私たちが日々通っている学校もその一例です。東京都の歳出の内訳を見ると、教育に関する支出が 11%程を占めており、またその内の約 53%が公立の小・中学校の運営に使われています。このことから、義務教育がいかに大切にされているかが伺えます。

私は、このように義務教育が大切にされ、税金が使われるのは未来への投資のようなものであると考えます。また、教育に関すること以外にも未来のことで税金が関わっていることは多くあります。それは税金が使われる場面だけでなく集める場面でも同じです。

例えば、カーボン税というものがあります。これは環境資源の枯渇に対処する取り組みを促す「環境税」で、石炭・石油・天然ガスなどの化石燃料に税をかけることで二酸化炭素の排出量を抑える取り組みです。この税がつくられた背景には地球温暖化が進んでいることがあり、カーボン税による税収は地球温暖化対策の財源として用いられています。

他にも、未来の環境を守るための税は日本だけでなく世界にも存在します。2022 年からイギリスでは「プラスチック製包装税」が施行されています。これは、新しいプラスチックではなくリサイクルされたプラスチックの使用を推奨することを目的としていて、プラスチックごみの削減が狙いの取り組みです。この税がつくられたことにより、イギリスの大手スーパーマーケットがプラスチックのリサイクルに取り組むようになるなど、税のもつ影響力がとても大きいと分かる出来事でした。

このようなカーボン税やプラスチック製包装税などといった環境税は今、世界中に広まっています。環境税には、環境にかかる負担を少なくできるといったメリットがありますが、私はデメリットもあると思います。税金による国民の負担が増えるということです。しかし、環境税の税にしかできない、地球と私たちの未来の環境を守るという役割は必要であるとも考えます。

このような、義務教育のためにつかわれる税、環境保護のために集める税、といった税には、「私たちの未来」をつくる役割があります。この役割は私たちの生活に深く関わっている税にしかできないことです。だからこそ税についての理解を深め税の役割を知ることが私たちのやるべきことなのではないかと思います。